ふるさと大使、鹿沼を語る。

スポーツの力は素晴らしい 地域貢献に結び付けたい

平野早矢香さん
卓球指導・スポーツキャスター。主な経歴／ロンドンオリンピック女子団体銀メダルなど受賞多数。

コーディネーターはとちぎテレビの若林芽育（めぐみ）アナウンサーにお願いしました。若林さんも、もちろん鹿沼市出身です。

ときにユーモラスな大使たちの語り口に、集まった市民およそ150人が耳を傾けました。

かぬまふるさと大使パネルディスカッション

AMBASSADOR'S TALK ABOUT KANUMA CITY.

文化、芸術、スポーツなどさまざまな分野で活躍する「**かぬまふるさと大使**」。今回は3人の大使が集まって、鹿沼市の未来を語ってくれました。果たして、3人が語る鹿沼市の魅力とは？鹿沼市がよりよいまちになるためには？さぁ、トークセッションの開幕です！

鹿沼の魅力を上げるには

水樹　新国立競技場に、「鹿沼の木材」が使われると知ったときから、木だけに、気になるようになりました。故郷の山で育ったスギやヒノキが、文字どおりのひのき舞台に出ていくわけですから、本当に誇るべきことだと思います。また、鹿沼市が全国でいち早く「いちご市」を宣言し、「いちごいちえ」という素敵なイメージコピーでＰＲしていることは知っています。しかし、栃木県はいちご王国、県内どこでもいちご一同で、一丸となってＰＲしていってほしいなと思います。

平野　鹿沼といえば「いちご」ということですが、やはり「いちご」は栃木県の、というイメージがあります。もう一つの特産品である「さつき」は、日本の文化を感じることができ、なにより「鹿沼土」が欠かせません。いちごのイメージを栃木県から鹿沼市に変えることは難しいと思いますが、「さつき」を「鹿沼のさつき」として発信していくことで、日本全国だけではなく、世界にもその魅力が伝わるのではないかと思います。

柳田　鹿沼の魅力というと、「まちの人たちが温かい」と感じます。このイメージを、より現実的にこれからの市のあり方に結び付けて考えたいと思います。一つは「全国いちごコンクール」です。鹿沼がコンクールを開催することで、鹿沼のいちごの知名度を上げ、いちごを通して全国に隆盛をもたらすきっかけをつくる。それが鹿沼の温かさであり、これからのつながりであると思うのです。二つ目は「鹿沼大発見巡回バス」です。彫刻屋台や杉並木、地質など意外に知られていないけれど文化的、歴史的な価値の高いものを巡回バスで巡る。観光だけではなくて歴史も学び、単に知名度を上げるというだけではなく、地元の人と観光客がそこに一緒に乗ることができる。そんなことをやったらどうかと思います。

住みたい、住みやすい街とは

平野　私はいろいろな場所を転々とするような生活をしていたのですが、自然が豊かで心が落ち着き、ゆったりと過ごせる。そこが鹿沼市の素晴らしさなのではないかと思いますし、子どもたちの成長において自然と触れ合うことは非常に大切なことだと思っています。また、２０１３年から続く平野早矢香杯卓球大会では、７００人以上の小中学生が遠く県外からも集まります。スポーツイベントやさつき祭り、花火大会など、いろんな方が気軽に集まれるイベントがあると、より鹿沼の良さ、素晴らしさを感じてもらえ、もっともっと鹿沼市に住みたいという方が増えるのではないかと思います。

柳田　地方に行くと地元の新聞を見ることが楽しみです。そこには、まちおこしのヒントが山ほどあります。そういう情報を集めて、分析し、行政にフィードバックするための「まちおこし情報センター」を提案したいと思います。また先日、東京新聞のトップに福島県矢祭町の記事が掲載されました。この人口６千人足らずの町は、元気な子どもの声が聞こえるまちづくりを目指しています。その子育て支援の中で私が特に関わって応援しているのは、絵本を中心とした子どもの心の発達支援です。絵本によって子どもたちの心がのびやかに発達し感性が育つ、考える力が育つ。生まれた子がどう育つかというところまで全部展望した上での子育て支援が、鹿沼市でも必要だと思います。

水樹　私のキーワードは「木使い、気遣い、Ｗ（ダブル）きづかいのまち」です。建築物などに木材を使うことと同様に、目に見えにくい精神的なことへも気を遣ってほしいなと思います。それは、立場の弱い人や女性、特に妊産婦の方や働く母親に対してです。鹿沼市は両方の「きづかい」ができるまちとして、誰もが高い意識を持ってまちづくりができたらいいなと思います。

これからの大使の活動

柳田　絵本の読み聞かせは、子どもの心の形成発達、感性や言葉の力などを育てるのに非常に大事です。「絵本は心育てのバイブル」として活動をしていますが、あまり他のまちばかりでやっていないで、鹿沼市にも来ないといけないなと思っております。

水樹　「鹿沼里山ローマン街道」という、ミニロマンチック街道のような観光スポットを緩やかにつないでいくプロモーションができたらいいなと思っています。いちご農園や観光ガーデン、オーガニックレストラン、グランピング場、そういう自然をコンセプトにした施設を、里山の風景とかを盛り込みながら一つにつなげて、活性化できたらいいなと思っています。

平野　東京オリンピック・パラリンピックが近づいてスポーツ界が非常に盛り上がっていますので、やはりスポーツは素晴らしいということを伝える立場で携わりたいと思っています。また、これからいろんな勉強をして、スポーツを通して地域活性化になにか貢献できないかと考えています。

絵本は子育てのバイブル 子どもの感性を育てます

柳田邦男さん
ノンフィクション作家。主な経歴／『マッハの恐怖』で第3回大宅壮一ノンフィクション賞など受賞多数。

あらゆる弱者へ気遣いを 意識の高いまちづくり

水樹涼子さん
作家。主な経歴／06年県文化協会文化奨励賞受賞など創作、受賞多数。